

平成 30 年 10 月 1 日

平成 30 年 10 月博士前期・後期課程入学式告辞

九州工業大学長 尾家祐二

ご入学おめでとうございます。

ここに入学式を挙げるにあたり、栄えあるこの日を迎えられました皆さんに、心からお祝いを申し上げます。そして、これまでのご努力に敬意を表します。九州工業大学に皆さんを迎えることができましたことは、この上ない喜びであります。教職員を代表してお祝い申し上げます。

なお、本日入学をされる 69 名の皆さんのうち、58 名、約 84%は、17 の国や地域からの留学生の方達です。多くの国と地域からたくさんの方々が入学されることを、大変嬉しく思います。

最初に本学の歴史を簡単に紹介します。

これから皆さんが学ばれる九州工業大学は、1909 年に開校した私立明治専門学校を前身としています。創立者は、安川敬一郎氏です。わが国の産業の礎となった北九州及び筑豊地域で安川電機の設立など様々な産業を興された経済界の重鎮です。

明治時代の日本は、産業面、経済面において、当時の世界の大国からは、大きく遅れをとっていたため、国家を支える人材育成が必要でした。安川先生は、「国家によって得た利益は国家のために使うべきである。」という信念から巨額の私財を投じ、我が国の産業の振興を支える技術者を育成する明治専門学校を創設されました。来年、110 年目を迎えます。

さて、明治時代が始まったのは今から 150 年ほど前です。それまでは江戸時代と呼ばれ、武士による統治が続き、限られた国を除き、海外の国との交流はほとんどありませんでした。明治になって、日本は鉄道、電信、郵便事業、義務教育等に精力的に着手することで新たな産業を育成し、急速な近代化を進めました。そのためには諸外国から多く学ぶ必要があり、明治政府の中心的な役割を担う多くの人たちが、海を渡りました。その派遣団の中には多くの学生も含まれていました。明治専門学校の初代総裁であった山川健次郎先生も、江戸時代に生まれ、明治時代になって海を渡り、米国のエール大学で物理学を学んだ留学生のひとりでした。その後、東京大学や九州大学の総長を歴任するなど明治時代の礎を築きました。

明治の初めに、150 年後の、今の日本を想像することはとても困難だったでしょう。しかし、まず初めに、交通、通信、電力、教育制度等の社会的基盤づくりを行うことによって、

人が行き交い、ものが行き交い、情報が行き交うことを可能にし、人が学び、考える場や機会を提供したことは、その後の国の発展に大きく貢献したと考えます。

これからの未来を創り上げるのは皆さん学生諸君です。その未来において、技術の進歩は目覚ましく、交通および通信技術が進歩することによってグローバル化は一層進み、地球規模で人、組織および国が相互に素早く作用し合うことによって社会的課題は一層複雑になります。したがって、私たちも、孤立せず、多様な意見を交わし、相互に理解し、地球規模で考えることが大変重要になってきます。そして、そこには、新たな発見が数多くあることでしょう。

最後となりましたが、入学された皆さんが、健康に十分留意され、知的好奇心を持ち続け、様々な学習機会と環境を活用し、意義ある大学院生活を過ごされ、本学を選択したことが良い選択となりますことを重ねて希望致しまして、告辞と致します。本日は誠におめでとうございます。